

## 国際人道法違反のイスラエルの攻撃を止め、即時停戦を求める決議

イスラエルのパレスチナへの攻撃が激化しています。

昨年10月7日の戦闘からガザでは3万5千人近くが殺されました。水もトイレもないラファの難民キャンプで避難生活を送る60万人超の子どもたちは攻撃による負傷、病気、飢餓に苦しんでいます。

国際司法裁判所（ICJ）はラファへの軍事侵攻の即時停戦を命じましたが、イスラエルは拒絶し空爆を続行しています。ラファ難民キャンプへの攻撃で少なくとも45人が死亡した事態に対し、欧米各地でイスラエルの攻撃を批判する声が高まっています。「ラファへの全面攻撃は人道的破局となる。」「イスラエルは攻撃の拡大ではなく外交交渉に関与すべきだ」（グテレス国連事務総長）。この声を圧倒的に強め、停戦、全人質の解放、地域の安定を実現すべきです。

国連総会（193か国）は、5月10日の緊急特別会合で、パレスチナの国連加盟を支持し、安全保障理事会に再検討を求める決議を日仏中ロを含む143か国の賛成多数で採決し、国際社会の総意を示しました。

5月20日には国際刑事裁判所（ICC）のカーン主任検察官が戦争犯罪などでイスラエルのネタニヤフ首相やハマスの指導者らの逮捕状を請求したことを発表したことに対し、「紛争のすべての側の指導者が等しく含まれた措置」、「正しい方向への一歩である」と各国が支持しています。欧州の外相らからイスラエルがICCの判決に従うよう求める圧力も高まっています。

一刻も早くジェノサイド（集団殺害）の深刻な状況を打開するためには、「ガザでのすべての軍事作戦の即時中止とイスラエル軍の全面撤退、全人質の解放、パレスチナへの人道支援」を世界中から声を上げ求める必要があります。

私たち近江八幡市議会は、人権擁護都市宣言を持つ市の市民として世界の世論と運動に連帯し、ガザでの即時停戦と全人質解放、パレスチナの人道支援を強く求めます。

以上、決議する。

令和 6年 月 日

近江八幡市議会